

人文学会報

89号
2026. 3. 17

事務局

〒890-0005 鹿児島市下伊敷一丁目52番1号
鹿児島県立短期大学 文学科 日本文学資料室

鹿児島県立短期大学 人文学会

電話(〇九九)三〇一―二二一

〈研究室だより〉

今号は、今年度で県短を去られる米村大輔先生と、今年度より文学科の新メンバーとしてお迎えした野田ゆり子先生にご寄稿いただきました。

Is Life a Journey or What?

― 出会いのその先に ―



米村 大輔

時が経つのは本当に早いもので、気がつけば鹿児島に来て丸三年。着任したばかりの頃を振り返ると、この未知の土地に驚きの連続だった気がする。鳥肉を生で食べる文化に驚き、醤油の甘さに驚き、天然温泉の数の多さに驚き、横断歩道で止まった車に深くお辞儀する小学生の

礼儀正しさに驚き、盗難にあったと誤解するほど車に積もった灰に驚いた。もくもくと噴火している桜島を見て、避難しようとして慌てて家の中に飛び込んだ出勤初日が懐かしい。同じ日本なのにどうしてこうも自分の故郷と違うのか？ たくさん驚きが今では日常として心と体にすっかり馴染んでしまっている。鹿児島島の文化や風土との出会い、そして何よりも県短の学生をはじめとする鹿児島の人たちとの出会いが鹿児島愛を育んだ。私はこの地がとても好きだ。

よく旅は人生に喩えられたりするが、旅の醍醐味はなんといってもそこに待ち受けている「出会い」である。それは人生の醍醐味と言い換えてもいいかもしれない。学生の頃、日本・世界各地を旅して回って強く感じたことは、どんな旅にも「出会い」が必ず用意されているという

こと。何もなかった旅だなあと感じたことは一度もない。もしあったとすれば、あったはずの出会いに気づいていないだけ。そう思う。イギリス留学中はバーミンガム郊外に住んでいた。自分の進むべき道に少し迷い、立ち止まっていた時。休日、沿岸地域へちよつとした旅に出掛けた。いつものようになかなかやってこない電車（この時は一時間近く待った後、「もう電車は来ません」と駅員さんに駅から締め出され、そこで待っていた乗客みんなバス停に移動した）を待っている時、インドからお母さんと一緒に越してきたという少年と話をする機会があった。とても綺麗な目をしている少年でどこの国からやってきたのかと聞いてきた。私のポケットにあったチョコレートバーを美味しそうに頬張りながらもっと日本のことを聞きたがった。日本の話を聞いて

いる時のキラキラとした目、今は学校に行っていないと言った時のちよつと寂しそうな目、そんな表情が目には焼きつく。しばらくしてからお母さんに呼ばれ、話の途中で別れることになった。別れ際まだ話を聞きたそうにしていたその少年は、“See you again, in this life.”と私に言ってお母さんに手を引かれ歩き出し始めたが、またこちらを振り返って“*In this life!*”と繰り返して、手を振った。少年のヒンドゥー信仰が深いのか、輪廻転生の教えが染み付いているのだろうか。その言葉が最近ふつと耳に蘇ることがある。もつと話をしておきたかった。彼の話をもつと聞きたかった。もつと彼の好奇心をなみなみと満たしたかった。そんな思いが込み上げてくる。「この人生で」もう一度彼と巡り合うチャンスがあれば。そこでようやく気がつく。私にとって幸せとは、誰かと学びを分かち合うことに喜びを見出すことなのかもしれない。県短での授業はとても楽しい。学生の好奇心をくすぐることができたと思うとき、同時に自分が

学生から何かを受けとったと感じる。インドからやってきた少年の“*In this life!*”という言葉が蘇ってくるのもそんな時である。出会いとは、自分にとってその出会いの意味になんとなく気づいた時初めて「出会い」と呼べるものになるのかもしれない。少年とは二十年以上の時を経て、県短で学生と共に学びを深めていくことで初めて「出会った」のかもしれない。

あるカナダ人のカトリック神父は以前こんなことを話してくれた。「人生とは先が見えない暗闇を旅するようなものだ。人はある時、誰かから花火を受けとり、それを打ち上げる時がある。そうすると自分の、そして周りにいる人たちのほんのちよつと先の道が照らされ、歩き出していくことができる。」インドの少年から、県短の学生から、この地で出会った人たちからとても素敵な花火を打ち上げてもらった。ほんの少しだけ先の道が見えてきた。私は少しでもそういった人たちの道を照らすことができただろうか。大好

きになった鹿児島を、県短を去るのは本当に寂しい。出会った人たちには感謝の言葉が見つからない。受けとった花火と感謝の気持ち。そして寂しさ。それらを全てスーツケースに詰め込み、照らしてもらった道を頼りにまた旅に出ようと思う。

(文学科英語英文学専攻 講師)

着任挨拶

野田 ゆり子

二〇二五年四月に鹿児島県立短期大学に着任いたしました、野田ゆり子と申します。主として英語の授業を担当いたします。学部時代の派遣留学期間（イギリス）を除き、これまでほとんどの人生を関西で過ごしてきました。採用面接を受けるため、緊張しながら鹿児島のに降り立ち、県短の門をくぐったことを昨日のこのように覚えていきます。こじん

まりしていながらも、自然溢れるキャンパスに心惹かれていたので、鹿児島地に來られたことを大変嬉しく思っています。

大学院時代は、京都の同志社大学で英文学の研究を進めておりました。専門は二〇世紀のイギリスの小説、特にC.S.ルイスという作家を中心としています。二〇二三年三月に博士号を取得し、その後の二年間は非常勤講師として、複数の大学で英語・英文学の授業を担当しました。

授業準備、授業、採点、また次の授業準備：と、慌ただしい日々でしたが、教員の仕事が好きなきともあり、充実した毎日を送っておりました。関西で得られた学びを県短で生かすことができるよう、今後も精進していきたいと思っています。

これまで関西で過ごしてきましたが、実は鹿児島(薩摩)と全くご縁がなかったわけではありません。私が学部から大学院まで長らくお世話になった、同志社大学今出川キャンパスの位置する場所には、幕末に薩摩藩邸「二本松屋敷」が置かれて

いたそうです。毎日のように英文資料とにらみ合っていたあの場所が、薩摩藩にゆかりある土地だと知った時には、大変驚いたものでした。

もう一つ、不思議なご縁があります。県短に着任する前は、京都の鞍馬口というところで一人暮らしをしていました。鞍馬口通りを西へ進んでいくと、ひっそりとたたずむ古民家カフェがあります。カフェの前に立つ石碑の側面には「薩長同盟所縁之地」と刻まれています。毎日前を通っていたカフェのある場所ので、

かつて木戸孝允や西郷隆盛らが薩長同盟を締結させたとのこと(諸説あり)。鹿児島県民が愛してやまない西郷さんが、ここに！幕末史に明るくない私でも、知った時には大興奮してしまいました。

もちろん、県短への着任が決まった頃だったからこそ、「薩摩」というワードに敏感になっていった可能性もあります。しかし、ずっと通い続けてきた大学、そして初めての一人暮らしをした場所が、このように鹿児島と縁深かったという

ことに、つい意味を見出さなくなってしまう。もしかしたら、関西にいた時からずっと、見えない糸に導かれていたのかもしれない。



私が専門としているC.S.ルイスは、『ナルニア国物語』という子ども向けのファンタジーを書いた作家です。ナルニアと言えば、主人公のルーシイが、疎開先の屋敷にある衣装ダンスを抜けて、雪景色の別世界へと足を踏み入れる場面がよく知られています。四時間の新幹線の旅を終え、鹿児島に降り立つと、そこはまるで南国版「ナルニア。噴煙の上がる桜島、特殊な語尾のアクセントに、鶏肉のお刺身(ー)：戸惑うこともありますが、この地

都)を当時のままにいかにも再現するか、資料や現地を徹底的に調査し、データを整理することの大切さなど、多岐にわたり、片淵監督の情熱に圧倒された、あっという間の九十分間でした。



講演後に行ったアンケートでも、皆さんの感想をいただきました。最後に、いくつか紹介します。

●アニメーション制作について知る機会は初めてだったので、一つの作品を作る上でこれほど多くの労力や時間をかけ

るんだと感心した。

●制作は絵を描いたり動かしたりするだけじゃなく、登場人物のバックボーンや当時の人々の生き様など本当に細部まで調べていることに驚いた。講演を経て上映が待ち遠しいと共に、自分も片淵監督のように何か没頭できるものを見つけて、新しい世界を開きたいと強く思った。

●この作品で枕草子の時代の人々が感じていたことを実感できそうで面白そうだなと思った。清少納言が透明なものが好きだったんじゃないか、というのが素敵だった。時代検証の作業を想像するだけで気が遠くなるようだった。意外にも、今までに誰もしてこなかったことで、正確に再現することは簡単なことではないと思うので、ただただ凄いな、と思った。公開がとても楽しみなになった。

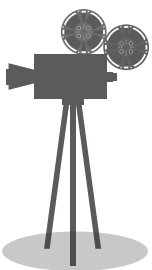
(以上、日本語日本文学専攻)

●「この世界の片隅に」が大好きで十回以上視聴しました。作中ですが作るご飯のレシピが具体的ですごくいいと思っていたのですが、今日の講演で情報収集の写真を見て、作品の細かさに納得しました。建物や服装までその時代を表現していることに圧倒されました。その時代の情報を見ながらもう一度作品を見たくまりました。

●次の作品も楽しみにしています。

●映画を制作する際に実際に現場に行き、忠実に再現したり何百回もの試行錯誤を繰り返して映画を制作している姿の一部を九十分で自分の目と耳で直接体験することができ本当に嬉しかったです。鹿児島に来てくださり本当にありがとうございました。新作必ず見に行きます！本当にありがとうございます。

(以上英語英文学専攻)



〈二〇二五年度学術講演会報告〉

演題…編入してさらに

学びたい人のための勉強の仕方

日時…二〇二六年一月二一日(水)

場所…本学十四番教室

概要…本講演会は、本学卒業後、四年制大
学への編入学を志望し、さらなる
学びを目指す学生を対象としたも
ので、人文学会会員の竹本寛秋教
授(文学科日本語日本文学専攻)
を講師に迎え、実施されました。

当日は、日本語日本文学専攻、英語
英文学専攻、商経学科から三十一
名の学生が参加し、学科を超えた
関心の高さがうかがえました。

講演では、竹本教授が編入学試験
の準備における重要なポイントに
ついて、実践的なアドバイスを
行いました。志望動機の明確化、募
集要項を正確に読み解く力、試験
問題の出題意図を把握する視点、
面接での効果的な受け答え、説得力

のある小論文の構成方法、そして
編入学を目指す上で日常的に心
がけるべき学習姿勢など、多岐に
わたる内容が取り上げられました。
本講演会は「編入して、さらに勉強
したい」という明確な意欲を持つ
学生に向けたものとして企画され、
参加した学生たちは、進路選択の
参考となる貴重な情報を得る機会
となりました。

〈学外通信〉

日文での学びで芽生えた

故郷への思い

文学科 日本語日本文学専攻

寺田 桜心

生まれ育った屋久島を離れ、鹿児島県
立短期大学に入学した春から、早くも九

年の月日が経ちました。同郷の新入生は
おらず、不安でいっぱいだった私の心と
は正反対に、学内の桜が満開で、とても
綺麗だったことをよく覚えています。

教室のあちこちから聞こえてくる鹿児
島弁の独特な訛り。島では同世代の子
達が方言を話すことがあまりないため、
これには本当に驚きました。カルチャー
ショックと言っているほどの衝撃でした
が、数日も経てば私もすっかり鹿児島訛
りになっていました。同じ教室で学ぶ日
文の仲間はとても気さくでおしゃべりで、
私も負けじと話しているうちにすっかり
鹿児島弁が移ってしまっただと思いま
す。ちなみに、日本語学講読の授業で言
葉の地域差を学んだ時にこのカルチャー
ショックは役に立ちました。日常の気づき
や驚きが学問に繋がる面白さを肌で感じた
思い出です。

県短の授業の中で、もう一つ思い出深
いのが、三嶽公子先生の「南九州の文学」
です。鹿児島に所縁のある作家や作品に
ついて、三嶽先生がユーモラスに話して

くださるので、いつも楽しみにしていました。その授業では、意外なことに、私の故郷である屋久島がたびたび登場しました。中には読んだことがない作品もあり、生まれ育った島なのに知らないことがたくさんあるのだと痛感しました。

特に、三嶽先生は屋久島在住の詩人山尾三省さんのことを授業の題材に取り上げてくださいました。屋久島の森で暮らしていた山尾三省さんの「アニミズム」という考え方とそれらを表現した言葉の数々。屋久島に今もなお、豊かな自然が残っているのは、古くから自然とともに生き、自然の恵みを生かして暮らしてきた人たちがいること、さらにその自然と暮らしを言葉で繋いできた山尾三省さんのような存在があったからこそだと学び、いつしか私も故郷である屋久島の魅力をもっと多くの人に伝えていけるようになりたいと思うようになっていました。

卒業後、鹿児島市内に就職しましたが、三年前に屋久島へ帰ってきました。現在は公益財団法人屋久島環境文化財団の職員

として、主に広報誌の企画・編集や、

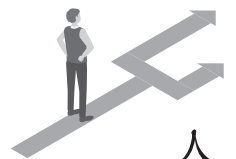
県内外で屋久島の自然や文化をPRする業務などに従事しています。情報発信や環境学習の場づくりに携わるとき、毎回必ず『環境文化』とは何か」という問いにぶつかります。屋久島には人々の暮らしを表す「山に十日、海に十日、里に十日」という言葉があるのですが、詩から読み取れる山尾三省さんの暮らしがまさにそうです。世界自然遺産の島として注目されるのが当たり前となった今の屋久島しか知らない私にとって、山尾三省さんの詩は伝えるべきポイントを教えてくれる大きな存在です。幸いなことに、生前の三省さんと私の父は親しく、父の書棚には三省さんの本がたくさんあります。県短で過ごした日々が教えてくれた学ぶことの楽しさを忘れず、これからも多くの本を読み、言葉を知り、学び続けていきたいと思っています。

(二〇一九年三月 日本語日本文学専攻卒業、現在、公益財団法人屋久島環境文化財団職員として勤務)

人生の分岐点

文学科 英語英文学専攻

南 来樹



私にとって県短は、まさに救世主のような存在であった。県短がなければ、英語教諭として中学生の前に立つ今の自分はなかったかもしれない。

中学卒業後、自動車関係の仕事に就くために工業高校へ進学した私は、資格取得や部活動に充実した毎日を過ごしていた。その中で、二年生の夏休みに参加したイングリッシュサマーキャンプが私の進路を変えるきっかけとなった。キャンプではALTとのコミュニケーションは基本的にすべて英語。知っている英語やジェスチャーを駆使し、試行錯誤しながら思いを伝えた。伝わった瞬間の喜びが積み重なっていくかけがえのない時間を過ごし、二泊三日のキャンプはあっという間に終わった。

キャンプの後も英語を話せるようにな

りたいという思いは日に日に強くなり、三学期に入ると勇気を出して英語の先生に英語を学べる大学へ進学したいとの思いを打ち明けた。しかし先生の表情は険しかった。工業高校は卒業後に就職する生徒がほとんどのため、大学進学に必要な科目を十分に履修していなかったからだ。しかし先生はそんな私に、推薦制度を利用して県短文学科英語英文学専攻に入学すれば、英語の道に進める可能性がある」と教えてくださった。私は県短への進学を決意した。

こうして英語力に不安を抱えながらも県短での生活が始まった。オールイングリッシュの授業や文学を扱う授業は、まるで異世界に迷い込んだような刺激に満ちていた。もともと教員という仕事に興味をもって私は、教職課程を履修し、教育方法を専門とする石井先生のゼミに所属した。ゼミで教職を履修している学生は私だけだったが、空き時間や放課後に模擬授業の生徒役として協力してくれる仲間や、的確な助言をくださる

石井先生のおかげで、徐々に授業づくり
に自信を持てるようになり、教育実習を
終えられた。教育実習以外では石井先生
の二部の英語の授業を参観したり、市内
の小中学校での授業見学、ゼミで訪れた
沖永良部での高校生との交流、小学校で
の外国語活動に関する校内研修への参加
など、教員としての一步を踏み出すため
の貴重な機会を数多く与えてくれた濃密
な二年間だった。

県短卒業後は四年制大学に編入・卒業
し、現在は、鹿児島県内の公立中学校で
英語教諭として勤務している。元気いっ
ぱいで思いやりにあふれる学級、賑やかで
笑い声が絶えない職員室。初任教として
これほど恵まれた環境に赴任できたこと
に、日々感謝している。

英語教諭としての今の私があるのは、
県短で学ぶことができたからである。
興味を惹きつける授業をしてくださった
先生方、共に学び、同じ時間を過ごした
仲間たちに、心から感謝を伝えたい。

最後に卒業生のみなさんへ。二年間

あつという間だったことでしょう。県短
で得た学びは人生の財産となるはずです。
自信をもって次の一步を踏み出してくだ
さい。心から応援しています。

(二〇一九年三月 英語英文学専攻卒業、
現在、南種子町立南種子中学校教諭)

〈卒業にあたって〉

県短で過ごした、
かけがえのない時間



日本語日本文学専攻

中村 あめり

二年間の県短生活の中で、私は多くの
得難い経験をしました。県短に合格し友
達と喜びあったあの日、入学式で期待と
不安で胸がいっぱいだったあの日、文学
作品について語り合ったあの日、教育実
習でてんやわんやだったあの日、全て昨
日のことのように思い出されます。卒業

することが名残惜しいほどです。卒業にあたり二年間の数々の思い出のほんの一部ですが、この機会を借りて懐かしんでいこうと思います。

日文の先生の授業はどれも面白いものばかりでした。文学系の授業では、多くの作品を通じて様々な人の想いを感じる事ができました。その上で作品について先生方や友達と話すのは自分にとって大変刺激になりましたし、物事の当たり前を真剣に考える楽しさも覚えることができました。語学系の授業では、普段使っている日本語について一から学びました。いつも使っている言葉なのに何も知らないのが、新鮮で不思議でした。脇道に逸れた話も、先生方のお茶目な一面が伺えて嬉しかったです。

教職の授業では初めてのことがいっぱいでした。そもそも人前に立って授業をするということが初めてでしたから、それは入念に準備をして自分を落ち着かせていました。それでもやはり、分かりやすく人に伝えるということは難しかった

たです。教育実習ではさらに、伝えるだけでなく考えを促すということも意識せねばなりませんでした。高いハードルでしたが、実際に生徒と関わる中で少しずつ乗り越えられたように思えます。

卒論制作では、美少女ゲームについての論文を書きました。中学生の頃から好きだったゲームについてひたすら向き合い、そこにある文学性を追い求めました。言語化する作業は大変難しかったです。同時に私にとって幸せな時間でした。卒論を通して中学生の頃の私に触れられたような気がします。

日文資料室で友人と課題をしながら、語り合ったのも良い思い出です。県短祭で何をするか、今日の授業はどうだったかなど色々なことを話しました。時には議論のようになって意見が割れることもあり、些細なことで熱くなっているのが何だか面白く感じて笑いが零れることもありました。この楽しさと言ったら、九十分もの空きコマが待ち遠しく思ったこともあった程です。

思い出すのはどれも楽しいことばかりで、そんな県短からもそろそろ卒業の時期になりました。名残惜しいですが、悲しくはありません。この愛しい思い出が私を支え、明日に進めるからです。卒業後、私は教員として働きます。慣れないことも難しいことも沢山あるでしょう。それでも自分の決めた道に、時には県短での思い出を振り返って、進んでいこうと思います。

最後になりますが、私を支えてくださった先生方、いつも一緒に居てくれた友人達、ありがとうございました。皆さんが幸せであるように、いつまでも祈り続けます。



異文化との出会いが変えた 私の進路



英語英文学専攻

大重 優梨菜

私は推薦入試で英文専攻に入学しました。県短を選んだ理由は、英語に特化した環境で、英語に興味がある仲間と共に学びたいと考えたからです。県短での二年間を振り返ると、挑戦と学びに満ちた充実した時間だったと実感しています。英文には少人数制のオーラルコミュニケーションの授業をはじめ、たくさん魅力がありますが、特に私の成長に大きく影響した二つの経験について紹介したいと思います。

一つ目は、一年の夏に参加したハワイ研修です。カピオラニコミュニティカレッジでは、午前は英語の授業、午後は施設見学やワークショップ体験を通じてハワイの歴史や文化を学びました。日本語を学ぶ現地の学生との交流では、鹿児

島について紹介し、おはら節と一緒に踊りました。

ハワイ研修初日、「それは失礼な行為です」という先生の一言が、私に大きな衝撃を与えました。授業中に先生に指名された際、先生から視線をそらして友人を振り返る行為がアメリカでは失礼とされることを知り、日本ではそれほど問題にならないこの行動が文化によって全く異なる意味を持つことを痛感しました。このような経験はすべてが新鮮で、大きな刺激を受けました。ハワイ研修で日本では気づけない外から見る日本を知り、異文化コミュニケーションへの関心が一層強まり、編入を目指すきっかけの一つとなりました。

二つ目は、異文化コミュニケーションゼミでの学びです。一年後期の課題はペア活動でした。四つのペアに分かれて、それぞれ興味のある異文化コミュニケーションの理論について例をあげながら英語で説明し、他の六名の理解を促す英語のワークを作ります。授業外でもペアで

集まって準備し、自分たちが選んだ理論について細かい部分まで調べることで、活動の回数を重ねることに成長とやりがいを感じました。

学外活動も多く、一年後期には二度の合宿を行い、カヌーや森林アスレチックなどの身体全体を使わなければいけないコミュニケーション活動を通じてメンバー同士の理解を深めました。二年前期にはアメリカ人大学生との異文化交流合宿を行い、ヴィーガンの食文化との違いを実感しながら野菜中心の手巻きずしで交流しました。

一番の思い出は奄美でのフィールドワークです。一回目は四十以上の観光施設を回り英語対応実態調査をし、二回目は五つの小中学校を訪れ、三百名以上の児童生徒と英語で異文化交流を行いました。奄美の文化を題材に、自分たちでワークショップの流れや教材を考え、学校ごとに内容を調整するのは大変でしたが、ゼミメンバー全員で協力することでチームワーク力の高まりを感じました。さらに、

彙報

奄美にインターンシップに来ていたキルギス国立大学の大学生とも交流し、文化の違いを肌で感じることができました。

県短での二年間は、自分の関心を深められる環境に恵まれていました。ハワイ研修での異文化体験とゼミでの実践的な学びが、私の「もっと学びたい」という思いを強めてくれました。これらの経験が私の進路を変え、大学編入を決意する大きなきっかけとなりました。

この二年間、多くの先生方に支えていただきました。進路に迷ったとき、親身になって相談に乗ってくださり、編入試験に向けても丁寧にご指導いただきました。少人数制だからこそできる一人一人に寄り添った教育環境に心から感謝しております。卒業後は異文化コミュニケーションをさらに深く学び、将来は航空業界で異文化コミュニケーションの実践者として国際理解の促進に貢献したいと考えています。県短で培った実践力を現場で活かすことが私の目標です。

◎人文学会行事日程

二〇二五年

三月十七日

「会報」第八八号発行

七月十八日

総会・役員交代

(会長≡文学科長) 竹本

(庶務) 小亀



第四条 本会は前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- 1 研究調査・資料の収集
- 2 『人文学会報』の発行(年一回)
- 3 研究会・講演会等の開催
- 4 その他役員会が適当と認めた事業

第二章 会 員

第五条 本会は次の会員をもって組織する。

- 1 普通会员 鹿兒島県立短期大学に所属し、人文諸科学に関心をもつ教員
- 2 学生会員 鹿兒島県立短期大学に所属し、人文諸科学に関心をもつ文科学科在学学生
- 3 特別会員 本会の発展に貢献し、役員会において認められたもの
- 4 賛助会員 本会の趣旨に賛同し、普通会员と同額以上の会費を納入するもの

○鹿兒島県立短期大学人文学会会則

(一九七七年六月三日制定)

(二〇二〇年四月十七日最終改正)

第一章 総 則

第一条 本会は鹿兒島県立短期大学人文学会と称する。

第二条 本会の事務所を鹿兒島県立短期大学文学科日本文学資料室におく。

第三条 本会は人文諸科学の発展に寄与し、会員の研究振興を図ることを目的とする。

第六条 会員として入会しようとする者は、入会申込書を会長に提出し、役員会の承認を得るものとする。

第七条 会員は、総会において別に定める

会費を納入しなければならない。

第八条 会員は、退会届を会長に提出し任

意に退会することができる。

2 会員が、次の各号のいずれかに該

当するときは、退会したものとみなす。

(1) 本人が死亡したとき。

(2) 学生会員が卒業したとき。

第九条 本会は普通会員による総会を年度

始めに開催する。ただし、必要のある時は臨時的に総会を開催することができる。

第三章 役員

第十条 本会に次の役員をおく。役員任期は一年とする。

会長 一名

庶務 一名

会計監査 一名

第十一条 本会は定期的に役員会を開催す

る。ただし、必要のある時は臨時的に役員会を開催することができる。

第四章 会計

第十二条 本会の経費は、事業収入・寄付

金および助成金をこれにあてる。

第十三条 会費は役員会での審議を経て、

総会の決議により別に定める。

第十四条 本会の会計年度は毎年四月一日

に始まり、翌年三月三十一日に終わる。

第五章 会則改正

第十五条 本会則の改正は役員会での審議

を経て、総会の決議によって行う。

附則

1. この会則は、二〇二〇年四月十七日より実施する。

○会費に関する総会決議

(二〇一五年十一月二十日)

(二〇二〇年四月十七日最終改正)

本会の会費を次のとおり定める。

普通会員 一年二〇〇〇円

学生会員 二年一〇〇〇円

2025年度 人文学会決算報告書

収入	前年度繰越金	41,368
	学生会員会費	79,000
	普通会費	22,000
	寄附金	1,000
	収入計	143,368
支出	印刷費	42,350
	茶菓子代	2,862
	報会費	4,000
	講演原稿料	10,000
	支出計	59,212
	次年度繰越金	84,156

《編集後記》

人文学会報第八十九号を手にとつていただき、ありがとうございます。「春は出会いと別れの季節」といいますが、本号には、教員の異動に加え、卒業を迎える学生、そして社会に出た卒業生の声も収められています。それぞれの別れが、次の歩みへとつながっていく——そんな節目の空気を、本号から感じていただければ幸いです。

人文学会報のバックナンバーはこちら
(<https://k-kenzan.ac.jp/jimmon/>)でも見ることが出来ます。おひまな時間にぜひのぞいてみてください。(小亀 拓也)

〈令和7年度卒業研究標題〉

文学科日本語日本文学専攻

氏名	卒業研究標題
《土肥ゼミ …… 中国文学》	
秋元亮舞	搜神記の社会的意義 千宝『搜神記』の社会的意義について分析した論です。テーマと仮説を決めるのに苦しみました。
瀬崎麟太郎	白居易と仏教の関係性についての研究 白居易の作品を読み、仏教が白居易に対し、どのような役割を果たしていたのか読み取ることに力を注ぎました。
堀碧記	性善説と性悪説 『孟子』と『荀子』という作品から、両者の思想を分析するところに力を注ぎました。
《楊ゼミ …… 日本語学・日本語教育学》	
川元彩央依	養子縁組の真実告知における言語的特徴の分析 語りの多様な機能とその関係性を客観的に分析することに力を注ぎました。
高木心愛	日本のリップコスメに見る色彩ネームのイメージ構築要素 なるべく多くのデータを集め、多角的な視点から分析することを努力しました。
徳重里音	少女マンガのヒロイン・主人公の話し方とその変遷 —1980年代～2020年代— 少女マンガにおけるヒロインと主人公の話し方を分析。数値に基づいて客観的に考察することを心がけました。
中曲瀬優芽	テレビショッピングにおける商品紹介の談話構造と言語的訴求表現の分析 大量のデータの中から重要な部分だけ抜き出して自分でまとめ直すことが集中力を要し、とても大変でした。
野間健獅郎	関西方言話者のLINEチャットにおける関西方言の機能 関西方言話者がLINEチャットで使用する関西方言の機能について分析した論文です。
本村こなつ	若者のもつ一人称代名詞に対するイメージのほか、現実とSNSで使用する一人称代名詞の乖離についての比較研究 若者の一人称代名詞のイメージやSNS上での使用変化について分析しています。
《小亀ゼミ …… 日本語学》	
坂野颯志	鹿児島方言における助動詞の重層構造 —形容詞過去形と丁寧助動詞の共起原理— 鹿児島方言における助動詞の重複使用が文全体にもたらす効果について考察しました。
高橋音音	顎娃方言の残存についての研究 顎娃方言が強く残存していることの裏付けを取るために東京での実地調査を行いました。
西方杏夏	「一番ベスト」と「一番ベター」は誤った表現なのか 用例調査を行い、日本語のベスト・ベターの特徴から「一番ベスト」「一番ベター」を分析しました。
堀添ちなつ	短縮語の形成 —三つの仮説の使用による省略方法— 合計462語を三つの分析の視点で略したデータを使用し、それぞれの説の強みと弱みをまとめました。
松崎心花	『レジ袋は要りますか?』を問い直す —客の『いいです』が必ず『不要』を示す質問形式の条件— コンビニのレジ袋確認における曖昧表現の誤解を、質問形式の違いから分析した。
香田拓海	コーヒー構文の再考 —「コーヒー構文」は「うなぎ文」の一種である— 「コーヒーで。」のような文の「で」が、格助詞ではなく助動詞「だ」の連用形「で」であると主張しました。

〈令和7年度卒業研究標題〉

文学科日本語日本文学専攻

氏名	卒業研究標題
《竹本ゼミ …… 日本文学・近代》	
内山結愛	岩井俊二『スワロウテイル』 ―タトゥーからみる人物の描かれ方と機能― タトゥーにまつわる描写を細かく分析し、タトゥー史との繋がりを明確にすることに注力しました。
小藺飛鳥	理解しきれなさとともにある生の尊厳 ―永井みみ『ミシンと金魚』における語りの歪みと認知症表象から― 認知症や当事者に対する偏見のまなざしが相対化されていく感覚を重視し、作品を捉え直しました。
迫田寿々子	「かがみの孤城」における時間操作 小説を読み込み「語り」に巧妙に隠された効果について理解することに力を注ぎました。
徳丸陽南	宇佐見りん『かか』における「母性」 現代の女性を持つ女性の身体に対する葛藤や、母親との関係性について、整理、理解することに努めました。
中村あめり	美少女ゲーム『AIR』の着地点 『AIR』が美少女ゲームの典型からどのように逸脱し、どのようなゲーム体験を与えるのか明らかにしました。
東奈生	辻村深月『凍りのくじら』に描かれる空想物語が子どもの人格形成に与える影響と 若者のいい子症候群 主人公が高校生であることに注目し、子どもと若者の両方の視点から物語を分析しました。
福元文太	構造の仕業 ―島田雅彦『僕は模造人間』の複雑な構造の単純な目的の研究― 『僕は模造人間』の複雑な構造を単純な内容と止揚し、小説の罨に引っかからず観察するよう努力しました。
《木戸ゼミ …… 日本文学・古典》	
上原ゆい	『竹取物語』における天界と人間界の対比 天界と人間界の死生観を比較・分析。天人と人間を対等に比較することを意識し、資料収集や論文作成を行った。
久富木万恵	『万葉集』巻一および巻二における「よし」の漢字選択にはどのような傾向があるのか 同一の語に対して用いられている漢字が異なる理由を導き出すのが難しく大変でした。
平井理咲子	『源氏物語』、田辺聖子『新源氏物語』、宝塚歌劇2015年花組公演『新源氏物語』の比較 ―藤壺の女御がヒロインとして成立するための物語構成の考察― 宝塚版に描かれている場面だけでなく、不在の描写に着目することでより考察を深められた。
森茂琴葉	浜松中納言物語における唐後の転生と法華経の関係について 仏教の基礎や法華経の内容について理解しその内容を唐後に当てはめることに力を尽くしました。
吉見のどか	竹取物語の登場人物達の結婚観が物語に与える影響について ―当時の人々の結婚観を通して― 竹取物語の成立した当時の結婚にまつわる法律や婚姻形態を自分なりに分析することを頑張りました。

〈令和7年度卒業研究標題〉

文学科英語英文学専攻

氏名

卒業研究標題

《ガルシアゼミ …… 英語圏文化》

- 平田一華 The Difference Between Japanese and American Horror Films
英語執筆に苦戦しましたが、先生が優しく添削してくださったおかげで間違いを恐れず最後まで書ききれました。
- 井口哲仁 American Heroism and PTSD—Through War-Themed Films and Music—
映画や音楽を通じて、アメリカの価値観を探ることは貴重な経験でした。今回の研究テーマである PTSD が日本で社会問題となるうつ病に近い症状のため少しでも理解が繋がれば良いと思います。
- 小田かりん The Global Popularity of American Fast-Food
私は卒業研究を通して、アメリカンフードにおける歴史的・社会的背景を学ぶことができ、アメリカに対する興味関心がより一層深まりました。
- 川崎真莉亜 Racial Discrimination Depicted in the Film Green Book
映画「グリーンブック」を通して歴史的な差別を学び、人を理解しようとする姿勢の大切さを改めて考えることができました。
- 中納彩花 Marilyn Monroe's Impact on American Feminism
マリリンモンローの出演や過去のインタビューから、アメリカのフェミニズムにどんな影響を与えたのか考察し続けることができました。
- 福留麻衣 The Changing Representation of Women In Disney Princess Films
卒業論文を通じて、文学作品を多角的に読み解き、背景や表現を深く考察する姿勢の大切さを学びました。
- 前田逢依琉 The Evolution of American Superheroes Over Time
卒論を通じて、各ヒーロー作品の背景となる歴史や、スーパーヒーロー像の変遷を学べて良かったです。
- 吉村有結 The Evolution of American Architecture Against the Backdrop of American History
自分にはあまり馴染みのない「建築」と言う分野、ましてや海外の建築についての卒業研究は、自分の視野を大きく広げてくれました。

《小林ゼミ …… 比較文学・比較文化》

- 清水るか 装いは「生きた皮膚」である —Doing gender としてのファッション実践—
ファッションという観点からジェンダーを検討し、私たちはどのように自らを表現するのかを再考しました。
- 大迫アンジェリカ 『ハリー・ポッターと賢者の石』にかけられた翻訳の魔法 —映画と小説の役割語—
映画版・小説版『ハリー・ポッター』から原語と日本語を比較して、翻訳文化の重要テーマである役割語について論じました。
- 奥山陽月 『オリバー・ツイスト』から見るディケンズの目指した教育—小説家として、ジャーナリストとして、教育者として—
ディケンズがどのような社会、教育を目指していたのかについて追究することができました。
- 篠原杏 ディズニー作品の原題と邦題から見る翻訳文化の違い
有名なディズニー作品を取り上げ、原題と邦題や日米の翻訳文化について比較し考察しました。
- 篠原玖歩 日本とアメリカのあいさつの文化史
日常的なあいさつに着目することで、日本文化における価値観や人間関係の特徴を再認識することができました。
- 下脇也奈 『源氏物語』と『グレート・ギャツビー』に見る欲望と喪失 —失われた理想の追求—
『源氏物語』と『グレート・ギャツビー』を通して、理想が生む希望と悲劇性を比較しました。
- 新川床日奈 アメリカ南部への旅路 —『グリーンブック』から考える人種差別—
アフリカ系アメリカ人が直面していた人種差別の現実を映画『グリーンブック』を手がかりに考察しました。
- 高田莉央 絵本にみる日本と欧米の母性表象
日本と欧米の絵本を通して、社会が求める母性像の違いを多角的に考察しました。
- 竹原亜海 自己犠牲から自己実現へ —アンデルセン『人魚姫』とディズニー作品における女性像の比較—
アンデルセン童話とディズニー作品を比較し、時代によるジェンダー観とヒロイン像の変化を考察しました。

〈令和7年度卒業研究標題〉

文学科英語英文学専攻

氏名

卒業研究標題

《遠峯ゼミ …… 英語学・日英対照研究》

- 築 瀬 悠 小説『君の隣臓をたべたい』における臨場的スタンスと外置的スタンス
卒業論文がきっかけで自分が英語をゆっくりと自分のペースで読むことが好きだと気づくことができました。
- 平 峯 綾 昔ばなしにおける日本語の表現の翻訳について
考察を書くことが大変でした。資料の例は多い方が考察しやすいので多くの例を集めた方が良いと思います。
- 柳 元 里 菜 小説『森崎書店の日々』の日英対照研究
卒業研究を通して、日本語原作の作品とその英語訳の表現や文の組み立て方の違いを学ぶことができました。

《石井ゼミ …… 英語教育・異文化コミュニケーション研究》

- 安 樂 花 音 Early Childhood Education in Japan and Australia : From A Comparative Study for Future Cross-Culture Practitioners
日豪の幼児教育の違いを異文化コミュニケーション視点から理解できた。将来実際の現場で経験したい。
- 石 澤 悠 生 Motivation for Learning English : A Comparative Study of English Major and Non-major Students at a Japanese Junior College
英文の学生は言語活用や文化への興味が高く、学習意欲と実践志向が結びついていることが明らかになった。
- 大 迫 明日香 An Study on Spontaneous Speaking Ability among Japanese EFL Learners
英語即答能力と不安の関係を調べ、即答が遅いと認識する人ほど不安が高い傾向があることがわかった。
- 大 重 優梨菜 Cultural Self-Construal and Social Media Posting Behavior : A Comparative Study of Instagram and BeReal among Japanese College Students
以前から疑問に思っていたSNS投稿行動を文化的価値観から分析し、研究の楽しさを感じた。
- 大 平 樹 音 The Impact of Small-Group Private English Education on Learner Motivation
少人数制英会話教育が個別対応により学習動機を高めることが示された。今後さらに調査を深めたい。
- 玉 置 遥 菜 Communication Strategies and Personality Traits : A Study of Japanese English Learners
コミュニケーションストラテジーとパーソナリティーの関連性を研究できた。今後は各国での違いを調べたい。
- 富 紗妃菜 Developing and Implementing Basketball-Based Teaching Materials for Junior High School English Classes
CLILによる英語での内容学習で、意欲と理解が高まり、実践的な英語力と主体性が育つことを学んだ。
- 森 雄 琉 English Learning Motivation in Intercultural Contact : The Role of Willingness to Communicate
異文化交流における心理的要因と言語学習の関連を明らかにした。恐れず発話できる環境を詳しく調べたい。